

浸水想定区域に
お住まいの皆様へ

発行 **流山市**
保存版

水害から「命」を守るために

あなたへ伝えたいこと

出典・写真: 関東地方整備局江戸川河川事務所提供
令和元年 東日本台風の江戸川(流山市付近)

**流山市が「避難指示」を
発令した場合、
必ず避難しなくては
なりません。**

近年、大型台風などによる大雨の被害が大きくなっており、流山市でも大規模災害が現実的となっていますので、避難指示の区域の方は、必ず避難してください。

**「避難しない」
「避難の遅れ」により、
多くの大切な「命」が
失われています。**

「これまでは大丈夫だったから」という考えは捨て、「自らの命は自ら守る」という意識を強く持ち、どう行動すべきなのか、水害が起こる前に考えましょう!

目次

- | | | |
|---------------------|-------------------|------------------------|
| 1 発刊にあたって | 7 いつ、避難すればいいの? | 13 (記入例)マイ・タイムライン |
| 2 避難に関する情報 | 8 避難時の心得 | 14 (作ってみましょう)マイ・タイムライン |
| 3・4 水害はなぜおきるのでしょうか | 9・10 どこに避難したらいいの? | 15 避難時の感染症対策 |
| 5 あなたの家の洪水浸水想定は? | 11 マイ・タイムラインとは | 16 備蓄品および非常時持ち出し品 |
| 6 「避難」に備えて何をすればいいの? | 12 マイ・タイムラインの作成 | 17 わが家の防災メモ |

★ウラ表紙に「ハザードマップ」を差し込むポケットがあります。
「ハザードマップ」をお持ちでない方は、市役所にてお求めください

発刊にあたって

水害からあなたの 「命」を守るために



流山市長 井崎 義治

市民のみなさまには、日頃から流山市の防災行政に特段の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
令和元年10月12日の台風19号では、流山市で江戸川の水位が20年ぶりに最高水位を更新し、あと少しで避難判断水位に達する状況でした。

翌13日の早朝6時には、江戸川沿いに「警戒レベル3／高齢者等避難開始」を発令しましたが、どれだけの人が避難されたでしょうか。

幸い江戸川の氾濫という最悪の事態には至りませんでした。近年の激甚化する水害には、「これまでは大丈夫だったから」は通用しないと多くのみなさまが危機意識を持たれたことと思います。

これを契機として、江戸川の洪水対策について、危機感を持たれた南流山地区を始めとする自治会が中心となり、地元市議団、行政も参加しての話し合いが始まりました。

その中で、「江戸川の浸水想定区域には約5万人の方が住んでいて、そもそも避難所が足りない。」「コロナの感染も心配。」「一斉に逃げることは難しいから1日前に避難する、車がある人は車で遠くに逃げる。」「冊子を配りみんなで危機意識を共有する。」などが話し合われました。

この取り組みの成果のひとつとして、今回、新たな冊子を作成することができました。

水害は事前に準備ができる災害です。車での早めの避難もひとつの方法です。

特に避難に時間を要する、お身体の不自由な方や小さなお子様をお連れの方は、「車避難」もひとつの方法として検討し、あなたの「マイ・タイムライン(行動計画)」を作成してください。

そして、「自らの命は自ら守る」、「大切な人の命を守る」、「逃げ遅れゼロ」に向けてこの冊子を活用し、自ら行動し率先避難者となっていただければ幸いです。

この冊子で 皆さんへ 伝えたいこと

あなたは「流山市では水害は起きない・起きていない」と思っていないですか。
令和元年東日本台風では、流山観測所(江戸川)も最高水位を記録するなど、洪水発生まであと少しという危険な状態でした。
想像もできない「想定外」の大雨は、身近に迫っています。

この冊子では、

1. 水害がおこる仕組みを学ぶ

2. 自分の住んでいるところの水害リスクを知る

3. 水害の恐れがある時は、「いつ」「だれが」「どんな行動」をとればよいのか?

これらを水害が起こる前に、皆さん自身で考えていただくことを目的としています。
皆さんの「水害対策の第一歩」として、この冊子の活用を切にお願い致します。

※事前に流山市「洪水ハザードマップ」「浸水(内水)ハザードマップ」を揃えておきましょう(5ページ参照)。

※この冊子では、氾濫の範囲が広く被害が甚大となりうる「外水氾濫」を前提としております(外水氾濫については3ページを参照)。



避難に関する情報



以下に記載しているものは、国が示す避難情報等の発令の目安です。
 流山市への巨大台風の直撃や1000年に1度の大雨が予想される場合には、この目安に関わらず、安全に避難できるよう早めに市が避難指示等を発令します。
 ※市や関係機関が発令する情報の入手方法はウラ表紙をご参照ください

市が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いて、避難情報を発令します。

警戒レベル3【高齢者等避難】や警戒レベル4【避難指示】が発令された際には、危険な場所から速やかに避難行動をとりましょう。



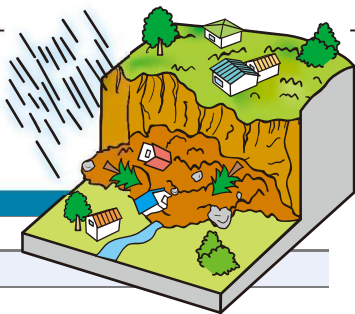
※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

特別警報

- 尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。
- 特別警報が出てからの避難では遅いです。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により、数十年に一度の降水量となる大雨になると予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

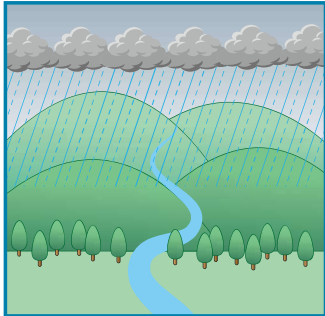


*噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域嚴重警戒)を特別警報に位置づけています。

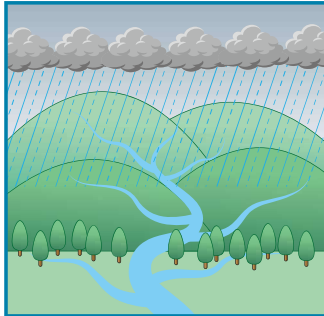
水害はなぜおきるのでしょうか

水害がおきるしくみ

上流で大雨が降る



雨水が河川に集まる



河川の水位が上がる



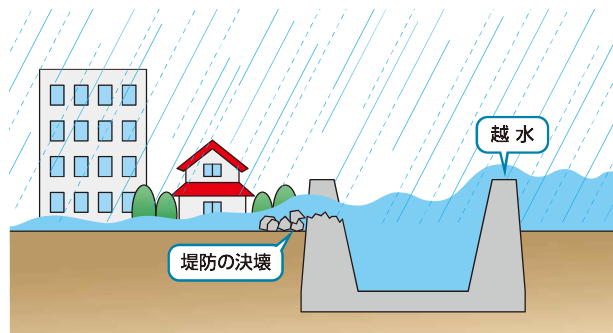
水害発生!

がいすい ないすい 外水氾濫と内水氾濫

氾濫とは、雨などにより、住宅地や農地などに水があふれることをいいます。

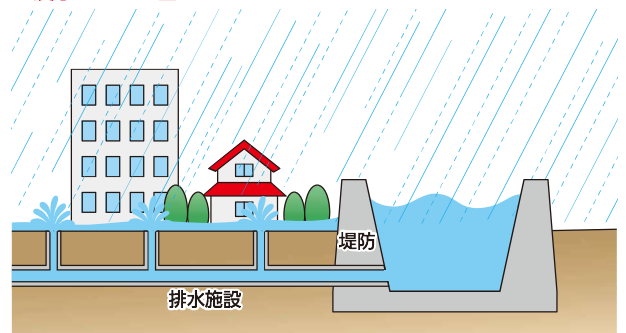
外水氾濫

大雨等によって大河川の水が堤防から越水したり、堤防が決壊することによって発生する浸水のことを言います



内水氾濫

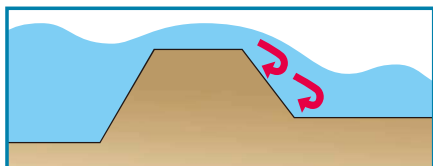
一時的に排水施設の能力を上回る降雨の発生や、市内の中小河川の水位上昇に伴って雨水を排水できない場合などに生じる浸水のことを言います



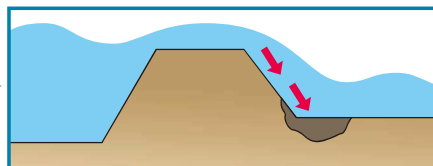
堤防が決壊するしくみ(例)

越水による破壊

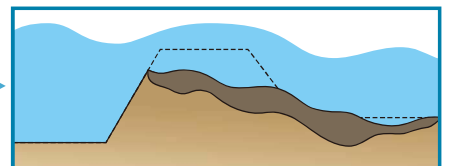
河川水が越流する



越流水により土で出来た川裏法尻が洗掘される

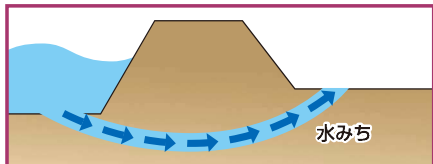


堤防の法尻が洗掘され、堤防が崩壊

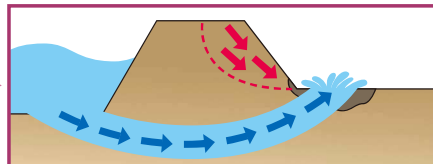


浸透(パイピング破壊) ※越水しなくても水害がおこる場合があります!

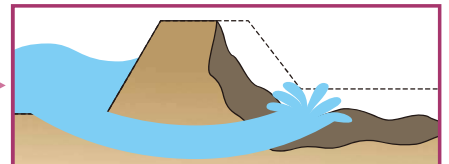
地盤内に水がしみ込み、パイプ状の水みちができる



放置すると水みちが広がり、堤防がすべり始める



堤防が掘られ、崩壊しやすくなる



河川の上流で降った雨が、だんだんと**河川に集まり下流に流れる**ことで水害が発生することがあります。(集まってくる範囲を流域といいます)流山市に向かって集まってくる流域は「利根川流域」「坂川流域」の2つです。(下图参照)

利根川流域図



利根川流域に降る雨をチェックしましょう



いち早く避難情報を出すために、流山市の雨量だけでなく、上流でいつ頃・どの位の雨が降るか把握し、江戸川の流山水位観測所での水位を予測しています。
また、大雨の予報がある場合は、潮位予報も把握します。潮位が高いと流下時間に影響があり、水位の減少に時間がかかるためです。

各水位観測所の水位を知りたい場合は、以下を参照ください

国土交通省 川の防災情報

<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00039.html>



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

洪水の到達時間差

上流域に降った雨が、流山市に到達するまでには時間差があります。
下图は、令和元年東日本台風における各観測所の最高水位の計測時間をもとに、参考算出しました。
雨の降り方によっては、さらに短い時間で到達する可能性があります。

